

鉱山町相川における歴史的建造物の残存状況および外観特性  
-町屋系配置を中心として-

正会員 ○大庭 裕雅\*  
同 岡崎 篤行\*\*

佐渡 相川 鉱山町  
歴史的建造物 残存状況 町屋

1. 研究の背景と目的

佐渡市西部に位置する相川は、我が国を代表する金銀山のもと栄えた近世鉱山町であり、佐渡の世界遺産登録における主要な地域の1つとして位置づけられている。さらに現在も歴史的な町並みが残り、地区ごとにそれぞれの特徴が見られる。これまで代表的な歴史的建造物<sup>(1)</sup>や一部の地区における町並みの調査<sup>(2)</sup>は行われてきたが、歴史的建造物の全体像は未だ明らかにされていない。そこで本研究では歴史的建造物の残存状況と町並みを構成している町屋系配置を中心とした外観特性を把握し、相川の町並みとしての価値を明らかにすることを目的とする。

2. 対象地概要と研究方法

1603(慶長8)年、佐渡代官に任命された大久保長安は翌年、陣屋(佐渡奉行所)を築き都市計画を行うことにより相川の基盤をつくりあげた。台地上の上町・海岸線沿いの下町など当時の町の骨格は今もなお見ることができる<sup>(1)</sup>。

研究の方法は、文献・既往研究<sup>(1)</sup>により対象地の概要を把握し、古地図<sup>(2)</sup>・航空写真<sup>(3)</sup>等をもとに町の歴史の変遷をふまえて調査範囲を決定する。現地調査では目視・ヒアリング・佐渡市提供データより歴史的建造物を推定し、用途・様式・配置・形態等の外観に対する調査を行う。なお、調査は2008年9月~2009年3月の期間に行った。

3. 歴史的建造物の残存状況

確認できた建造物総数 2004 棟のうち、776 棟を歴史的建造物と推定した。全体の歴建率<sup>(2)</sup>は約 39%であり、これは残存状況(歴建棟数・歴建率)が明らかとされている県内の町場では最大級といえる。しかし、大半が改造されており、現状を維持しているものは少ないといえる。

棟数が少ない町丁では歴建率の誤差が大きくなるため、棟数が 10 棟以上の町に限り、町丁別に見ていくと、三町目が 83%と最も高いことが分かる。さらに二町目~四町目が 69%、上京町~下京町が 51%、小六町~紙屋町が 50%、下戸町~下戸炭屋町が 46%と、歴建率が高い町丁が連続している地区が見られた[図 1]。

4. 戸建(伝統和風)の外観特性

歴史的建造物を用途、様式、配置より分類した結果、440 棟を「町屋系配置」として抽出した[図 2]。配置は接道条件(接道・半接道・一部接道・非接道)、接隣条件(接隣・半接隣・非接隣)、玄関位置(前面・側面)より決定され計 16 種類に分類される[図 3]。このうち接道/半接道・前面玄関もしくは一部接道を満たす 9 種類を「町屋系配置」とし、相川では屋敷型町屋<sup>c</sup>を除く 8 種類が確認された。さらに外観形態より 29 種類に分類し、主要な 12 タイプを抽出した[図 4・表 1]。これらは同じ横屋でありな

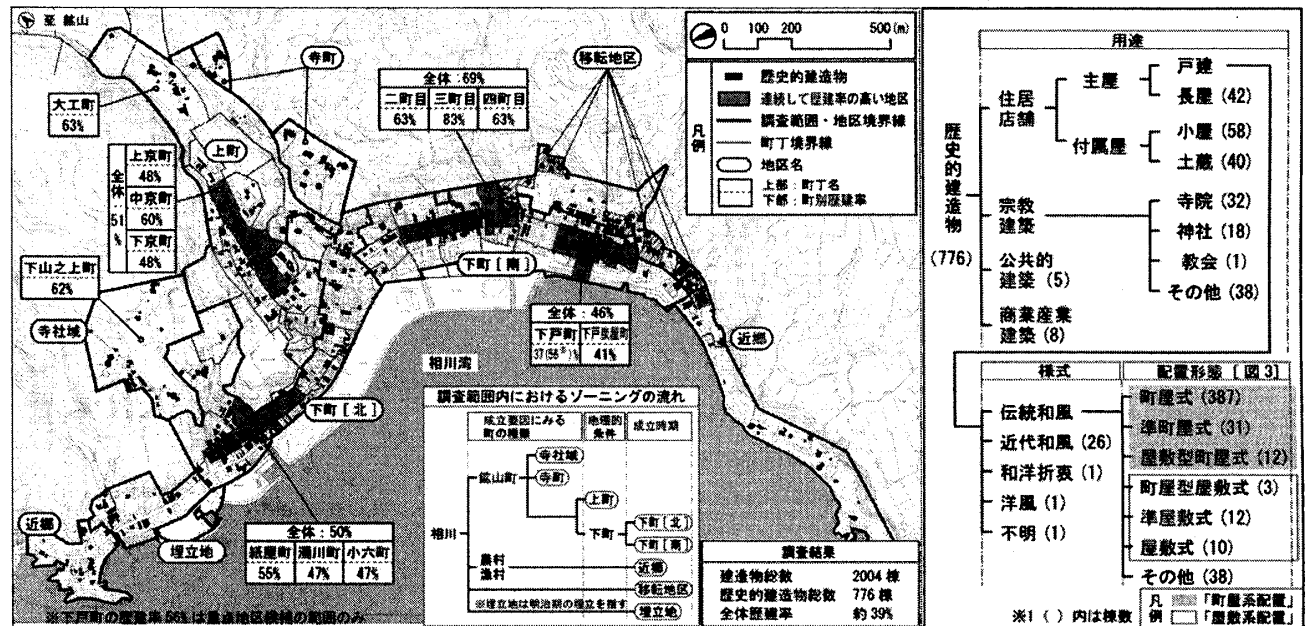


図 1. 歴史的建造物の残存状況

図 2. 歴史的建造物の用途/様式/配置による分類

Remaining Condition and Appearance Characteristic of Historic Buildings in AIKAWA mining town. -Focusing on Townhouses-

OHBA Hirotooshi, OKAZAKI Atsuyuki

がら、その外観形態は多様であるといえる。最も多く見られるタイプは①と⑥であり、①は鉾山に近い上町で多く見られる。さらに外観特性が明らかにされている島内の小木と比較すると、相川では平屋建の割合が明らかに高く、これは鉾山町大森でも同様の傾向が見られる<sup>9)</sup>。この2点より①と鉾山との関係性が示唆される。また、①は玄関に設けられる風除け<sup>(8)</sup>[図5]や玄関上部にある高窓[図6]が多く見られ、さらに建築年代は比較的古い傾向にある。年代に関しては2階高が低い④、⑤のタイプも同様の傾向にある。一方、⑥、⑨は小木において一般的に見られるものと同様の外観であり、下町で多く見られる。細部意匠としては窓付雨戸[図7]、ガラス雨戸はこのタイプに比較的多く見られる。また、抽出した12タイプの多くは町屋式であるが、外形がL型であり、屋敷的要素を含む準町屋式(⑪)、屋敷型町屋式(⑫)も見られた。さらに「屋敷系配置」も比較的多く見られる。

5. 長屋の外観特性

抽出された42棟の長屋を戸建(伝統和風)と同様に分類した結果、伝統和風(町屋系配置)と近代和風(町屋系配置・屋敷系配置)の計3タイプに分類した。伝統和風は上町に多く見られ、外観は①[表1]と類似している。一方、近代和風(町屋系配置)は移転地区・寺社域(下山之神町)で多く見られ、さらに外観形態より3タイプに細分類でき、その外観は多様といえる。また、三菱により建設された昭和初期の鉾山長屋が大半を占めている。「屋敷系配置」は上町にのみ見られ、前庭を設けている。

6. 結論

- (1) 町全体の歴建棟数・歴建率は県内で最大級である。特に二町目～四町目、上京町～下京町、小六町～紙屋町、下戸町～下戸炭屋町の4地区では連続して高い歴建率を示しており、町並み整備の重点地区候補となりうる。
- (2) 町屋系配置は外観形態より主要な12タイプに抽出され、このうち準町屋式、屋敷型町屋式など屋敷的要素を含むものも見られる。さらに屋敷系配置、長屋も複数のタイプに分類され、その配置・外観は多様である。
- (3) 地区別に歴史的建造物を見ると、上町には平屋のタイプが多く、下町には張出2階などのタイプが多く見られ、この2地区に立地する建造物の外観形態は大きく異なる。

【補注】

- (1) 本研究では第2次世界大戦(1945年)以前に建てられた建造物と定義する。
- (2) 調査範囲の全建造物に対する歴史的建造物の割合とする。
- (3) 本研究では、風除けのために設けられているこの細部意匠を「風除け」とする。正式名称は不明。

【参考文献】

- 1) 相川町教育委員会：金山の町佐渡相川 伝統的建造物群保存地区保存対策調査報告書, 1993
- 2) TEM 研究所：相川市街地再開発基本設計, 2005
- 3) 文政九年相川町墨引, 相川町所有, 文政九年(1826)
- 4) 国土変遷アーカイブ 空中写真閲覧, <http://archive.gsi.go.jp/airphoto/>
- 5) 島根県大田市教育委員会：石見銀山御料 大森の町並調査報告書, 1975

\*新潟大学大学院自然科学研究科 博士前期課程  
 \*\*新潟大学工学部建設学科 准教授・博士(工学)

\*Graduate Student, Graduate School of Science and Technology, Niigata Univ.  
 \*\*Assoc. Prof., Dept. of Civil Eng. and Arch., Faculty of Eng., Niigata Univ., Dr. Eng.

	横道	半横道	一部横道	非横道
横隔	町屋式	準町屋式 a	準町屋式 b	準屋敷式
半横隔	屋敷型町屋式 a	屋敷型町屋式 c	屋敷型町屋式 e	屋敷式 a
非横隔	屋敷型町屋式 b	屋敷型町屋式 d	屋敷型町屋式 f	屋敷式 b

図3. 配置による分類(※網掛け部分は町屋系配置、白い部分は屋敷系配置)

外形	横隔	階数	2階前 面形態	1階前 面形態	
町屋式 (387)	I型 (縦・間) (358)	横隔 (356)	平屋建(低) (134) [①]		
		縦隔 (2)	一部2階建 (8) [③]		
		丁字型 (0)	2階建(低) (45)	平面 (45) 下層 (32) [④] 下層 (13) [⑤]	
	I型(横) (22)	横隔 [②, ⑧]	2階建(中) (158)	平面 (132)	平面 (121) [⑥]
		L型 (5)	地築 (7)		下層 (11) [②]
	その他 (2)	横隔 (5) [⑩]	2階建(不) (4)		
				張出 (26) [⑨]	

図4 「町屋式」の外観形態による分類(※( )内は棟数、【 】内は表1のタイプ名と対応)  
 表1 「町屋系配置」の外観形態による分類(※(%)内は町屋系配置に占める割合)

タイプ名 (外形/階高 /前面形態)	① I(縦・間) /平屋	② I(横) /平屋	③ I(縦・間) /一部2階	④ I(縦・間) /2階(低) /平面
写真				
棟数/割合	134棟 (30%)	7棟 (2%)	8棟 (2%)	32棟 (7%)
優勢地区	上町	—	上町/近郷/移転	上町
優勢細部意匠	高窓・風除け	—	—	雨戸
優勢建築年代	大正	—	大正・昭和(初期)	大正
タイプ名 (外形/階高 /前面形態)	⑤ I(縦・間) /2階(低) /下層	⑥ I(縦・間) /2階(中・高) /平面	⑦ I(縦・間) /2階(中) /下層	⑧ I(横) /2階(中・高) /平面
写真				
棟数/割合	13棟 (3%)	121棟 (28%)	11棟 (3%)	8棟 (2%)
優勢地区	下町・近郷	下町[南部]	下町	近郷/移転
優勢細部意匠	—	窓付・ガラス雨戸	せがみ通り	—
優勢建築年代	大正	昭和(初期)	昭和(初期)	大正・昭和(初期)
タイプ名 (外形/階高 /前面形態)	⑨ I(縦・間) /張出2階 /中・高	⑩ L-(1)	⑪ L-(2)	⑫ L-(3)
写真				
棟数/割合	26棟 (6%)	3棟 (1%)	5棟 (1%)	4棟 (1%)
優勢地区	下町[南部]	—	—	下町
優勢細部意匠	窓付雨戸	—	—	—
優勢建築年代	—	大正	明治~大正	昭和(初期)

